令和6年度 市長と地域との懇談会 総括

今年度、市民の皆様から直接お声を聴く場として、連区ごとに懇談会を実施させていただきました。自治会の皆様には多大なご協力を賜り、令和6年中に全ての連区で開催することができましたこと、誠に感謝いたします。

その中でご指摘いただいた様々な課題について、以下のとおり大きく5つのテーマに分けてまとめました。

テーマ 1. ごみ減量とリサイクル推進

課題:

多くの地域で不法投棄やプラスチックごみの回収頻度の増加、リサイクルセンターの増設(改修)等の要望をいただきました。特に、不法投棄は地域の景観を損なうとともに、治安の低下につながる恐れがあります。また、動物によるごみ荒らしが住民の日常生活に影響を与えており、カラスやイノシシが頻繁に出没する地域では特に深刻です。外国人住民の多い地域では、ごみ出しルールの共有ができていないなど、多文化共生社会における周知方法が課題となっています。その一方で、リサイクル率向上にむけて、地域ごとの特色を踏まえた様々な取組みをしていただいていることが分かりました。

今後の市の取組み:

不法投棄防止やごみ出しルールの啓発を進めます。また、ごみ分別の状況を市民の皆さんと共有することで持続可能な取組みにつなげていきます。

テーマ 2. インフラ整備と公共施設の維持

課題:

道路や公共施設が老朽化しており、特に通学路や災害時の避難路の舗装の劣化や街灯不足により、夜間や災害時の移動を心配する方が多いことに加え、地域の防災拠点としての機能を十分に発揮できるのか不安を感じる方が多い状況です。また、公共交通が不便な地域では、高齢者や交通弱者が日常生活に不便を感じています。

今後の市の取組み:

状況を集約し、優先順位を明確にして整備を進めます。また、災害時の避難所としての利用も視野に入れた小中学校体育館への空調設備の設置を進めていきます。

テーマ 3. 防災力の強化

課題:

災害発生時には、被災による物資不足に直面することが懸念され、避難所の生活環境整備や備蓄品の充実が課題に上がりました。また、防災訓練等について、参加者をより増やすため、住民の防災意識向上に向けた取組みが求められました。

今後の市の取組み:

瀬戸市備蓄計画に基づき備蓄品の整備を行うとともに、地域と連携しながら、平時からの自助・共助による備蓄の必要性について周知に努めます。また、せと市民総ぐるみ防災訓練（瀬戸市総合防災訓練）に加えて、地域で把握された課題の解決に向けて独自の取組みを検討していただくなど、引き続き防災・減災に向けた取組みを進めていきます。

テーマ 4. 自治会の担い手不足

課題:

地域活動の担い手不足が顕著であり、自治会未加入世帯が増加する中で地域の結束力が弱まっています。自治会活動への負担を感じる方が増えているとともに、自治会活動に対する理解や参加意識が薄れている現状があります。また、自治会未加入世帯に対する支援が、加入者にとって不公平感を生んでいる地域もあります。人口が減少していく中、地域の協力体制をどのように維持していくかが大きな課題となっています。

今後の市の取組み:

瀬戸市自治連合会と共に自治会加入に向けての啓発を行うとともに、先進事例を研究し課題解決に努めてまいります。

テーマ 5. 教育と子育て支援の充実

課題:

子育て世代からは、子育て支援施設の充実や、子どもたちの学びの質向上につながる学校施設や教育環境の整備が求められています。学校跡地や地域資源の活用について、地域の活性化や子育て世代の参画につながる活用方法が求められています。また、地域図書館のない地域からは、整備について検討してほしいとの声がありました。

今後の市の取組み:

学校跡地や既存施設を活用した子育て環境の整備や地域の交流拠点の整備について、地域の皆さんとともに検討を進めていきます。

6. 総括

各地域が抱える課題は、地域住民の安全安心な生活や持続可能なまちづくりに直結する重要なテーマであると認識しております。今回いただいた貴重なご意見につきましては、今後の市の政策に反映してまいります。

これらの課題に取り組むには、地域特性に応じた効果的な施策を計画的に進めるとともに、住民と行政の役割分担を明確にすることが求められます。

今後は次期総合計画の策定も踏まえ、子育て支援団体などとの懇談会を開催することで、新たな視点からの課題把握にも務めてまいります。

最後に、持続可能な地域づくりのため、引き続き地域の皆さまの声に耳を傾け、「住む」「働く」「学ぶ」「育む」といった暮らしの4要素に加え、「守る」が充実したまちづくりを目指し、市政に取り組んでまいりますので、一層のご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年2月 瀬戸市長

川本 雅之